〈原著論文〉

教職課程の授業におけるグループワークの実践

山　崎　晃　昭*

The Practice of Group Work in Classes in the Teacher Training Course

（YAMAZAKI Teruaki）

1．はじめに

昨年度（令和３年度）の前期は新型コロナウィルス感染拡大のため、私が担当していた「教職入門」「生徒・進路指導論」の授業は、ほぼ Zoom によるオンライン授業で行った。本年度の前期は対面による授業が実施できることとなり、私が担当している「教職入門」「生徒・進路指導論」の授業は、第１回と第２回はオンライン授業で実施したが、第３回以降は対面で実施することができた。そこで、昨年度はこれらの授業において実施できなかった対面によるグループワークをできるだけ取り入れることとした。取り入れるにあたり、どのように対面によるグループワークを実施するかを考えることとした。

近畿大学（東大阪キャンパス）における教職課程の授業の特徴のひとつは、多くの学部の学生が混在して受講している点にあると考えている。普段は他学部の学生と授業を受ける機会が少ないであろう学生が、教職課程の授業においては他学部の学生とコミュニケーションが取れる良い機会となっている。ただし、教員から学生への一方通行的な授業を行う場合は、多くの学部の学生が集まっているというメリットも生かせないものとなってしまう。よって、私が担当する「教職入門」「生徒・進路指導論」の授業では、グループワークなどを取り入れて、多くの学部の学生とコミュニケーションをとれるよう工夫しようと考えた。

私は教職課程の授業にはさらに別の特徴があると考えている。それは、今回私が担当した「教職入門」や「生徒・進路指導論」の授業で扱う様々な教育の取組みについては、学生は小学校・中学校・高等学校等で児童・生徒として経験しているということである。つまり、今回授業で扱う様々な教育の取組みについて、教育の受け手側として経験しているということが、

＊近畿大学教職教育部教授

〔キーワード〕教職課程の授業、グループワーク、Jamboard、振り返り課題、授業の方法や形態

重要な特徴であると考えるのである。そして、その学生が経験した教育の取組みは学生一人ひとりが過ごしてきた小学校・中学校・高等学校等によって異なるものである。近畿大学では広範囲から学生が集まっており、また、国立・公立・私立など多様な学校出身の学生がいる。地域や学校によって教育には違いがあるので、学生が経験してきた教育の取組みも多種多様なものであるはずである。さらに、学生それぞれが自分が受けた教育について、こういう教育はよかったとか、この教育は効果が少なかった、もっとこうすればよくなるなどの意見を持っているはずである。教職課程の授業でグループワークを取り入れ、学生同士で各自が今まで経験してきた教育の取組みやそれに関する意見などについて話し合うことは、自分が経験していない様々な教育の取組みや考え方についても知る良い機会になると考えた。

そして、私は常に「教員をめざす学生には、自分が教員になったときどのように教育に取り組みたいかについて、具体的なイメージを持ってもらいたい。」と考えている。というのも、学生に教員採用試験に向けての面接練習などを行うのであるが、その際に、「教員になったら、どのような授業をしたいですか」、「担任として、どのように学級経営に取り組みたいですか」と質問したとき、授業や学級経営について具体的な取組みのイメージを持てず、質問に適切に回答できない学生も一部見受けられる。おそらく、その学生の知識や経験が自分が小学校・中学校・高等学校等で受けてきた教育によってイメージされるものに限られているからでないかと考えている。そこで、学生には教職課程の授業を受けることで、具体的にこういう教育をやってみたいと言えるようになってもらいたい。単なる知識だけではなく、授業や学級経営等の教育実践について、具体的に話すことができる学生を育てたいと思っている。先ほど述べたグループワークとして各自が経験してきた教育について話し合う中で、他の学生が語る授業方法やクラス経営などの教育の取組みを知ることで、教育のイメージを大きく広げることが可能になるとともに、自分が受けてきた教育についても見直すことができるはずである。

２．グループワークについて

⑴　高校の授業観察で見たペア（グループ）ワークの例について

私がある高等学校の校長職をしていたとき、年２回すべての教員の授業観察を行っていた。授業観察により指導助言を行うことで、教員の授業力向上につなげることが目的であったが、授業観察により教員の様々な授業方法や形態を見ることは、自分にとっても大変有意義なものであった。そのとき、私が観察した授業においては、教員がペアワークやグループワークを多

く取り入れられたものが多数あった。ペア（グループ）ワークの用いられている授業の一例をあげると下記のようになる。

① 一斉授業中に、教員の発問についてペア（グループ）ワークを利用するパターン
この場合、主に次のような授業展開となることが多い。

教員が発問する ⇒ 生徒一人ひとりが考える ⇒ ペア（グループ）で考えを述べあう
⇒ 教員が生徒を指名して回答させる

このやり方だと、発問に対してわからない生徒もペア（グループ）ワークによって理解できることもあり、どの生徒も発問に答えやすくなるというメリットがある。この場合、発問の内容としては、既知の学習事項についての確認や現在学んでいることについての問いかけなど、様々なパターンがある。そして、ペア（グループ）ワークに用いる時間は、数秒から数分と短い時間で行うことが多かった。また、一斉授業という一方通行的な学習の中で、ペア（グループ）でコミュニケーションをとるという授業の中に場面転換を入れるメリットもあるように思われた。

② 教員の指示によりペアで片方の生徒がもう一方の生徒にある事柄について説明をするパターンや、片方の生徒が質問してもう一方の生徒が答えるパターン

③ 教員が示した課題についてグループで討論し、その後、各グループの代表が発表するというようなグループワークのパターン
たとえば、国語（現代文）の授業で、グループに分かれて小説や評論などを読み、ある課題について討論するなど。

④ 英語の授業で、ペアとなってスピーキングや英訳・和訳を行うなど、話す・聞くというワークを行うパターン

⑤ 数学の授業で演習時間を設定して、各自が問題演習をするとともに、グループの中で理解

が進んでいる生徒が理解が進んでいない生徒に教えるようなグループワークのパターン

これら以外にも、従来から行われているものとして、理科実験、調理実習、体育・芸術におけるチームプレー等のグループワークもある。また、課題研究に１年間グループで取り組むという活動も行われている。

⑵　今回の授業で行ったグループワークの例について

２.⑴のように、私が授業観察してきた高校の授業では、さまざまなグループワークの方法がとられていた。しかし、今回の私が担当する教職の授業においては、一つのパターンとして次の図１のような順序でグループワークを行うこととした。

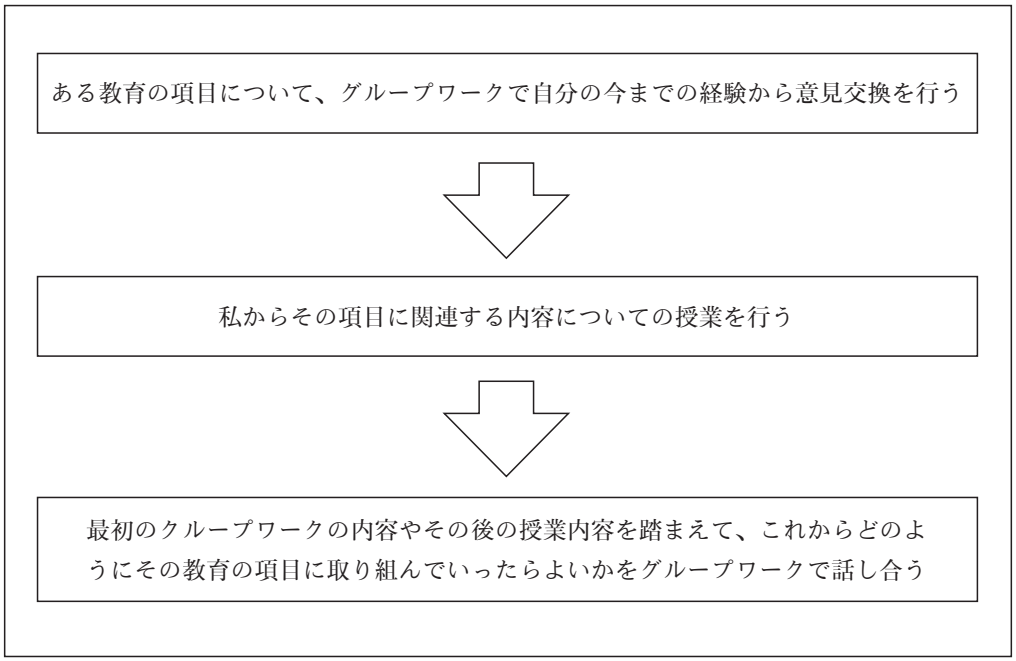


図１　グループワークの流れ

学生一人ひとりは、児童・生徒として教育について経験している。そして、今まで自身が経験してきた教育について、その内容や方法についての知識とそれらに関する意見も持っている。それをグループワークで出し合うことで、お互いに共有できる。そして、私からも関連す

る内容の授業をすることで、受講者に一定の知識や経験が共有できる。それをもとにグループワークを行って、自分が教員になったときどのように教育に取り組むかを自分事として考える。ここに教職課程の授業でグループワークを行うひとつの意義があると考えた。もちろん、このパターン以外にも、いろいろなテーマや方法でグループワークを試みた。

3．具体的な取組み

今回の授業では、2.⑵のことを踏まえ、次のような取組みを行った。

⑴　毎回の席替えと授業開始時のグループでの自己紹介

授業では様々な学部の学生が集まってきているが、座席を自由にする、または、毎回同じ固定席にすると、グループワークを行っても限られた学生とのみコミュニケーションをとることが多くなる。そこで、できるだけ多くの学生とコミュニケーションをとることができるようにしようと考え、毎回席替えを行い、毎回新たなグループでグループワークを行うこととした。毎回、授業開始前に教室のスクリーン等に座席表を表示し、それに従って学生は着席することとした。座席は毎回乱数によって事前に作成する。4人（一部は3人）を1グループとして配置する。各グループにおいては、はじめて話をするメンバーも多いことから、授業開始時に3分間のアイスブレーキングタイムを作り、各グループで自己紹介することとした。授業の最初で自己紹介を行い、お互いのことを知っておくことで、その後のグループワークも順調に進むと考えたからである。

教職課程の授業をとり教員をめざす学生であることから、初対面の相手とも自己紹介などでコミュニケーションをとることについての練習も兼ねることとした。実際に教員になった際に、様々な生徒や保護者と初めて話をする場合もよくある。また、生徒に自分のことを紹介する自己開示のような場面もよくあることである。教員をめざす学生には、そういう意味でも、初めてグループが一緒になったメンバーと話をするという機会を大切にしてほしいという思いもあった。

3分間のアイスブレーキングタイムを眺めていると概ね積極的に話をしているように見受けられたが、なかなか話が弾まないグループも一部には見られた。

⑵　グループワークとグループの意見表示

先ほども述べたが、今回の教職の授業におけるグループワークでは一つの展開方法として次

のような流れで実施した。

まずある教育の項目について自分の今までの経験から意見交換を行うという方法をとった。「各自が今まで経験してきた○○教育」について、グループワークを行うことで各自がこれまでの小・中・高校などで経験した教育をグループ内で共有すること、その中で様々な教育の方法があること、様々な考え方があることを学ぶことができる。そして、各グループで話し合った後は、私が教室を回って、各グループの代表にそのグループで出た教育の取組みや意見などを教室全体へ発表してもらった。そうすることで、各グループで話し合われたことが教室全体で共有でき、学生たちは自分のグループ以外の様々な考え方にも触れることができる。その後、私からその項目に関連する内容についての授業を行い、その上でもう一度グループワークを行う。最初のクループワークの内容やその後の授業内容を踏まえて、これからどのようにその教育の項目に取り組んでいったらよいかを話し合い、発表してもらうことで受講者全員で共有するという流れである。

教育の項目としては、キャリア教育、人権教育、防災教育、教育相談、不登校への対応、特別支援教育などを取り上げた。この場合、グループワークの時間は原則３分間とした。長い時間を使うのではなく、短時間でお互いの意見を出し合うことにして、グループワークを行った。

その他、上記のような展開以外にもいろいろな内容や方法でグループワークを行った。一例をあげると下記のようなものである。

①　テーマ（例えば「よい授業とは」、「いじめをなくすための具体的方策」、「ネットいじめの未然防止と解決」など）を決めてグループで討論する。この場合は、グループワークに20分程度の時間をとり、KJ 法によりワークを行った。このワークにおいては、次に説明する Jamboard を用いて、グループワークと発表を行った。

②　①以外にも、「教職入門」または「生徒・進路指導論」の授業で次のようなテーマでグループワークを行った。

「教員の多忙化解消」、「チーム学校における外部人材」、「部活動のメリットとデメリット」、「教員に必要な資質・能力」、「“主体的・対話的で深い学び”とは」、「観点別評価の方法」、「授業における生徒指導とは」、「学級開きの担任の挨拶」、「学級集団作りの方法」、「教員が当事者意識を持ち組織的に取り組むには」、「保護者対応」、「生徒と人間関係を作るには」、「生徒から信頼される教師になるには」、「教師のリーダーシップ」、「子どもたちの規範意識の醸成」など。

③　動画の視聴、または、プリントの資料を読んだ後に、その動画やプリントの内容についてお互いに考えたことや感想をグループで話し合う。

⑶　Jamboard を使ったワークショップ

授業の中盤回あたりまではグループワークの方法は言葉のやりとりだけとしていたが、中盤回～最終回にかけては、必要に応じて Jamboard を使用した。Jamboard は複数の者が画面を共有し、全員が共有画面に付箋を貼ったり、付箋を移動したり、文字や線を描いたり、テキストや画像を加えたりできるソフトである。

Jamboard は各自が持参してきているパソコンやスマホにより入力等することで、共有画面で意見交換が視覚化して行える。言葉のやりとりだけで行っていたグループワークを、視覚的にも整理して意見交換できるものである。さらに、Jamboard を利用することで、KJ 法などのグループワークも模造紙や実際の付箋を使うことなく、共有画面上で簡単に行うことができる。

具体的な利用の方法としては、

①　各グループで話し合った主な内容を各グループの PC 担当者（各グループで決める）が Jamboard に入力し、その共有画面を教室のスクリーン等に映し出すことにより、受講者全員で視覚的に理解することが可能になる。

②　グループワークで Jamboard を利用することで、視覚的な情報も利用しながら意見交換する。

③　グループワークで Jamboard を利用して KJ 法を行う。さらに、Jamboard のファイルを教室のスクリーン等に映し出し、グループごとに発表する。

④　Jamboard のデータを PDF ファイル等にして受講者全員に配布した。学生が授業後にその PDF ファイルを見ることで、授業内容を思い返すとともに、授業の振り返り課題を行う場合にも参考になると考えた。

⑷　毎回の授業の振り返り課題の提出と返却

毎回の授業の振り返りは昨年度のオンライン授業においても実施してきたものである。授業の中で本時の授業の課題（グループワークで話し合ったことなど）を示し、Google classroom においてグーグルフォームの形式で300字以上記述して提出することとした。昨年度はオンラ

イン授業で受け身的に授業を聞くことが多かったことから、毎回の授業で課題を課し、その日の夜の12時を締め切りとして提出させていた。学生たちがその日のうちに授業を振り返るとともに、自分の考えをまとめることを目的としたものである。また、提出された課題は名前等の個人情報は取り除き、全員の300字以上で記述されている部分のみをファイルとしてGoogle classroomにおいて学生へ配信した。これを見ることで、他の学生がどのようなことを考えているのかを知ることができるようにしたものである。

その日のうちにこの課題を提出することはなかなかたいへんな作業であると言う学生もあったが、考えをまとめたり、文章を作成する中で、考えをまとめ文章を作る力が向上したと言ってくれる学生もいた。特に、一年生の受講が多い教職入門では、高校時代に文章を多く書くという機会があまりなかった学生が、大学生になって教職入門で毎回一定量の文章を書くことで、書くという作業に慣れてきたという感想を言ってくれる学生もいた。

今年度もこの授業の振り返り課題については、対面授業となったが同様に実施することとした。方法と目的等は昨年度と同様である。ただ、グループワークや発表などを授業中に多く取り入れるため、授業中に様々な知識や考え方を吸収することで、昨年度より振り返り課題を書くことが容易になると考えた。

４．実施した質問紙調査について

⑴　質問紙調査の内容と対象者

質問紙調査の内容は次の６項目である。

① 「毎回の席替えと授業開始時のグループでの自己紹介」は皆さんにとって良い取組みとなりましたか。

② 「グループワークとグループの意見表示」は皆さんにとって良い取組みとなりましたか。

③ 「Jamboardを使ったワークショップ」は皆さんにとって良い取組みとなりましたか。

④ 「毎回の授業の振り返り課題の提出と返却」は皆さんにとって良い取組みとなりましたか。

①～④については、下記の選択肢から一つ回答する択一式である。

1（そう思う）

2（まあそう思う）

3（どちらとも言えない）

4（あまりそう思わない）

5（そう思わない）

⑤　上記の①から④の取組みについて、何かコメントがあれば記載してください。

⑥　皆さんは大学の教職の授業において、どのような授業方法や授業形態を希望しますか（一斉授業、グループ討論、発表、模擬授業、ロールプレー、調査・研究など、何でも構いません）。記述してください。

質問紙調査の対象者は、私が担当した「教職入門」「生徒・進路指導論」の履修者全員とした。回答者数および履修者数は以下のとおりであった。

「教職入門」　　回答者数84人（履修者数90人）

「生徒・進路指導論」　回答者数70人（履修者数82人）

⑵　質問紙調査の結果

質問紙調査の結果は、以下のとおりである。

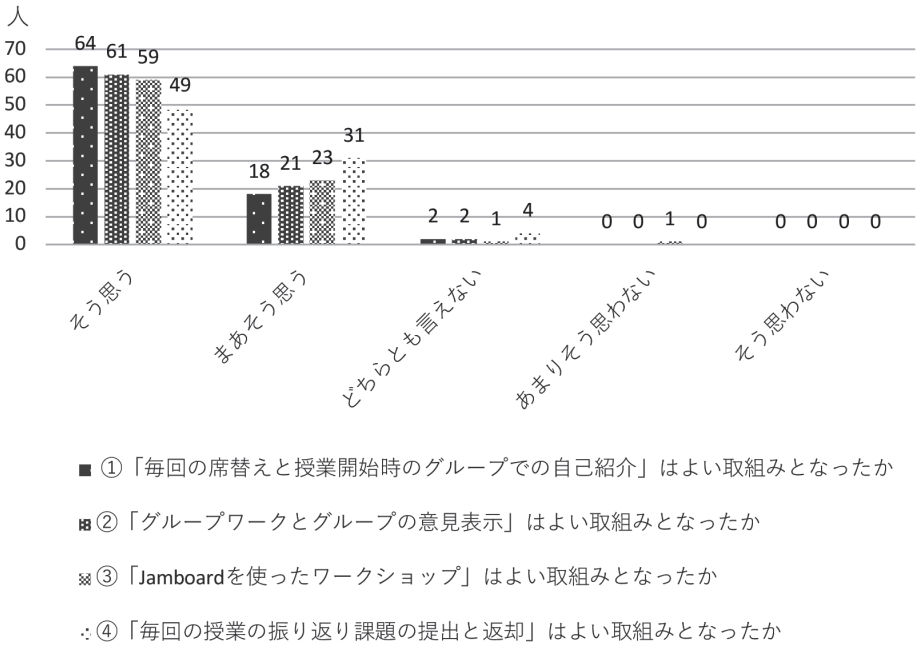
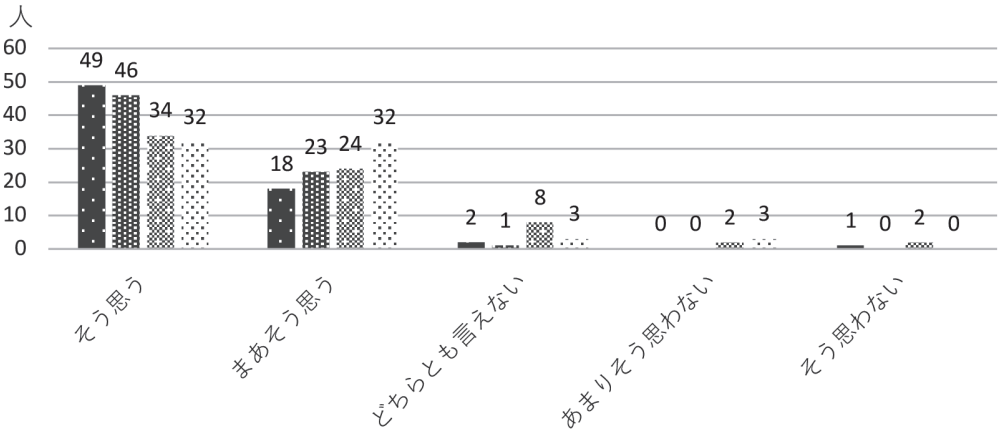


図２　「教職入門」における意識調査



■ ①「毎回の席替えと授業開始時のグループでの自己紹介」はよい取組みとなったか
■ ②「グループワークとグループの意見表示」はよい取組みとなったか
■ ③「Jamboardを使ったワークショップ」はよい取組みとなったか
■ ④「毎回の授業の振り返り課題の提出と返却」はよい取組みとなったか

図３　「生徒・進路指導論」における意識調査

⑤における主な記述内容（教職入門）

- 席替えやグループワークで他の人と関わることができて色んな意見を知ることができ、また、仲を深めることができて良かった。
- 毎回違う人とたくさん話す機会があり、とても有意義だったと思う。
- 毎回席替えをするのがすごく良かった。楽しみになるし、多くの意見が聞けるので良かった。
- 毎時間席を変えて、色々な人と話し合う時間があるのが良かったです。
- 話したことがない人がまだいるので、全員と席替えで同じ班になるようにして欲しいです。
- グループが毎回違うのがとても楽しかったです。
- 席替えの回数が多く、同じグループの人と交流を深めるのが難しかったので、もう少し頻度を下げて特定の人とグループワークをする機会を増やした方がいいと思った。
- グループワークで他人と対話しながら学びを深めていけるのは非常に良かったです。
- グループワークをすることは、他の人の意見を聞くことで自分にはない新しい考え方に触れるきっかけになるのでとてもよかった。

- 人と関わるのが苦手なのですが、授業でそのような機会がある事でコミュニケーションの場があり、とても良かったです。自分の意見だけでなく、様々な意見が取り入れられて良かったです。
- Jamboad を活用した授業はとても良いと思った。
- Jamboard を使ったワークショップにおいて、端的に言い表せるよう表現を工夫できたことがよかった。付箋を使わずに PC 上で行うことで、環境にも良いと思った。
- 課題を返却する事により、他の人の様々な意見を見ることができ、より深く学ぶことができた事が良かったです。
- 毎回300字の長すぎず短すぎない程度の課題があり、教職の内容に加えて文章を作る力も付いた実感があるので良かったです。
- 毎回の振り返り課題のおかげで300字程度の文章を書くというのが容易くなった。
- 課題の期限が当日なのは大変だった。
- 課題の提出期間が一日である必要はないと思います。
- 振り返りの課題がその日中というのが、予定などでできない時があるので、せめて次の日の夜くらいの提出期限にして欲しかったです。

⑤における主な記述内容（生徒・進路指導論）

- 教職をともに受ける友達ができてとてもよかったので、毎回席替えをしたり毎回グループワークを取り入れてくださったり、とてもよかったと思います。
- 教職課程では、様々な学部の人と交流できるうえ、この講義では毎時間席替えがあったのでより多くの人と活動できたと思います。
- 座席表を授業前にクラスルームに提示して頂けたら助かります。
- 席替えの座席をあらかじめ共有していってもよいと感じた。
- 毎回の席替えはいつも自分の場所を探すのが大変だった。毎回席が変わってグループワークになるのはよかった。
- 毎回の席替えはとても新鮮で面白かったです。
- 毎回席替えがあって他学部や初めて話す方とも一緒になれて交友関係を広げることができたし、あまり人と話すのが得意ではないのですが、毎回のグループワークを通して初めての方とも活動することにあまり抵抗がなくなったと思うので良かったです。

- 毎回席替えがあることで、色々な人とコミュニケーションができて、さまざまな考え方にふれることができた。
- 毎週違う人とグループワークを行えたことがとても良かったと思います。
- グループワークで他の学部の生徒達と関わることでこんな意見もあるのかと勉強になった。
- グループワークはとても有意義で、他の人の意見から、理解を深めることができました。
- グループワークをすることで、いろんな人の意見を聞くことができました。自分と違う意見で、なるほどと思わされたり、そういう考え方もあるのかと驚いたり感心したりしました。
- 対面授業で授業を受けるのが２年ぶりであった。やはり対面であると意見交換がしやすく、授業が捗るなと感じた。
- 普段関わりのない学部の方とコミュニケーションができて良かった。
- Jamboardについてですが、いい機能だなと知れて良かったです。日常でも使えそうです。
- Jamboardを使ったワークショップは、良い活動だったと思う。
- Jamboardを用いる授業が少し少なかったので、話し合いをする際にそれを用いて先生が回って聞くのではなく、そこから抜粋していくのもよかったと感じる。
- 毎回の課題提出はその日の学びを復習する意味でもよい取り組みであったと思う。
- 課題によって授業内容を再確認することができたので、とてもよかったです。
- 課題返却によって他の人がどのような考えだったのかなど自分以外の視点を知るきっかけにもなりました。
- 課題に関してはその日までに提出というのが、他の課題のことを考えるときつかった。
- ４限目というのもあり、300字は少しきつかった。
- 課題提出の締切までが短く感じた。
- 課題の返却を読む時間がなかなか取りにくかったので、授業の始めにとっていただけるとより良いのではと思います。

⑥における主な記述内容（教職入門）

アンケートの⑥について、記述形式としたため、様々な記述があったので、回答の意図されていることを踏まえて、次の図４にまとめた。一人の学生が複数の授業方法や形態を記述していることもあったので、回答数の合計と回答人数は一致しない。

希望する授業の方法や形態	教職入門	生徒・進路指導論
グループ討論	42	41
グループ討論と発表	5	0
発表	4	0
グループ討論（発表、ロールプレーなども）を含む一斉授業	10	17
模擬授業	14	2
ロールプレー	8	8
調査・研究	3	2
一斉授業	7	6
オンライン授業	0	0
動画を見る授業	1	0
オンデマンド授業	0	1

図４　希望する授業方法や授業形態

５．考　察

⑴　毎回の席替えと授業開始時のグループでの自己紹介

毎回の席替えについてはアンケート結果でも肯定的に捉えている学生が多かったと思われる。記述意見の中にも「毎回の席替えはとても新鮮で面白かった」「毎回席替えがあって他学部や初めて話す方とも一緒になれて交友関係を広げることができたし、あまり人と話すのが得意ではないのですが、毎回のグループワークを通して初めての方とも活動することにあまり抵抗がなくなったと思うので良かったです」「毎回席替えがあることで、色々な人とコミュニケーションができて、さまざまな考え方にふれることができた」などがあり、当初の目的が達成できたと考えられる。ただ、授業開始時のグループでの自己紹介については、直接記述された意見がなかったので、この自己紹介を学生がどのように受け止めていたかのについてはもう少し聞いてみる必要があると思われた。自己紹介がグループワークをスムーズかつ活発なものにしているのか、また、交友関係を広げることにつながっているのかについては、今後、検討していきたい。

また、「席替えの回数が多く、同じグループの人と交流を深めるのが難しかったので、もう少し頻度を下げて特定の人とグループワークをする機会を増やした方がいいと思った」といった意見もあり、同じメンバーで交流を深めたいと思っている学生もいたことは留意する必要が

あろう。座席表については、授業が始まる10分くらい前に示していたが、「座席表を授業前にクラスルームに提示して頂けたら助かります」「席替えの座席をあらかじめ共有していってもよいと感じた」「毎回の席替えはいつも自分の場所を探すのが大変だった」といった意見もあり、多人数の授業の場合には事前に座席表を知らせるのも一つの方法であると感じた。

あと、この席替えについては当然のこととして座席表を作成しているので、座席表で出欠の確認ができることもメリットのひとつであった。出欠については学生証のタッチによって確認できるのだが、タッチがうまくできていなかった場合や、学生証を忘れた学生がいる場合などがあり、このようなときに座席表の出欠確認は役に立った。また、学生に発問や指示などをする場合に、座席表があるので名前で呼べることもメリットと考えている。もちろん座席を15回の授業で一定に固定して座席表を作っても同様のメリットはあるが、グループワークのメンバーを毎回の授業で変えることと、このメリットを生かすことを両方行うには、今回の毎回席替えをして座席指定することが一つの方法であると考える。

⑵　グループワークとグループの意見表示

グループワークについてもアンケート結果で肯定的に捉えている学生が多かったと思われる。記述意見の中にも「グループワークで他人と対話しながら学びを深めていけるのは非常に良かったです」「グループワークをすることは、他の人の意見を聞くことで自分にはない新しい考え方に触れるきっかけになるのでとてもよかった」などがあり、対面でのグループワークを多く取り入れてよかったと考えている。グループワークの際に私も学生の中に入って会話に加わったりしていたとき、「自分が受けてきた教育（キャリア教育、人権教育、防災教育など）について記憶があいまいであったが、グループワークをしていると思いだしてきた。」と言っている学生も結構おり、自分が受けてきた教育の振り返りや再認識にもつながったのではないかと思われる。そして、グループワークの話の内容を聞いていると、教育に関して生徒としての認知から教員としての認知へと変化していることがよくわかった。

１グループの人数も３～４人で行ったが、グループワークを観察していて、多すぎず少なすぎず適度な人数であるといった印象であった。時間はKJ法で実施する場合は除いて原則３分としたが、内容によって時間を適宜設定するのもよいかもしれないと思った。

各グループで話し合った内容などを話してもらうのに、教員が各グループを回って各グループの誰かに話してもらうようにした。そして、その都度、教員からもコメントするようにし

た。毎時の学生のレポートを読んでいると、他の班の発表についても学生たちがよく聞いていたという印象を受けるので、受講者全体で各グループが話し合ったことが概ね共有できていたと考える。

私自身も、学生の今まで受けてきた教育についての内容や考えを聞くことで、今の子どもたちが受けている教育やそれに対する思いなどを改めて知る貴重な機会にもなった。

⑶ Jamboardを使ったワークショップ

Jamboardについてもアンケート結果で肯定的に捉えている学生が多かったと思われる。授業の中でJamboardを以前使ったことがあるかを学生に尋ねたが、ほとんどの学生が使ったことがないという回答結果であった。今回のアンケート結果では、「Jamboardについてですが、いい機能だなと知れて良かったです」「日常でも使えそうです」「Jamboardを使ったワークショップにおいて、端的に言い表せるよう表現を工夫できたことがよかった。付箋を使わずにPC上で行うことで、環境にも良いと思った。」といった記述もあった。毎時の授業のレポートの中にも、Jamboardを大学の授業で行う模擬授業で活用したいといった意見や教員なったときにも活用してみたいという意見もあった。ほとんどの学生が今回の授業で初めてJamboardを使ったが、操作も簡単で学生たちもすぐ馴染んで使用していた印象があった。

「Jamboardを用いる授業が少し少なかったので、話し合いをする際にそれを用いて先生が回って聞くのではなく、そこから抜粋していくのもよかったと感じる」といった意見もあり、Jamboardを授業の中でどのように活用していけばよいのかは、今後の課題である。

⑷ 毎回の授業の振り返り課題の提出と返却

毎回の授業の振り返り課題については、アンケート結果ですでに述べてきた①～③の項目に肯定率は達しないが、肯定的に捉えている学生が多かったと思われる。「毎回の課題提出はその日の学びを復習する意味でもよい取り組みであったと思う」「課題によって授業内容を再確認することができたので、とてもよかったです」。といった意見もあり、授業で習ったことやグループワークで話したことについて、文章にまとめることで内容や考えを再確認できるということで、改めて文章にまとめることの重要性が感じられた。特に、教職入門では受講者がほとんどが１年生ということもあり、「毎回300字の長すぎず短すぎない程度の課題があり、教職の内容に加えて文章を作る力も付いた実感があるので良かったです」「毎回の振り返り課題の

おかげで300字程度の文章を書くというのが容易くなった」といった文章を書くことに慣れたという意見もあった。

課題返却については、「課題返却によって他の人がどのような考えだったのかなど自分以外の視点を知るきっかけにもなりました」「課題を返却する事により、他の人の様々な意見を見ることができ、より深く学ぶことができた事が良かったです」と書いてくれた学生もあり、課題返却ですべての学生が書いている内容を見た学生にとっては、様々な考え方に触れられてよかったと思われる。ただ実際には「課題の返却を読む時間がなかなか取りにくかったので、授業の始めにとっていただけるとより良いのではと思います」といった意見もあるように、なかなか課題返却の内容をすべて読む時間が取れないのが実情かもしれない。この学生が書いているように授業のはじめに課題返却について触れることも一つの方法ではあるが、90分の授業の中で新しい事項の説明も行い、グループワークも取り入れるとなると、時間的な余裕がないことも事実であり、課題返却をいかに有意義なものとするかについての方策は今後の課題である。

①～③の項目に肯定的意見が達しない大きな理由としては、記述意見でも多く出ている「その日のうちに提出することが大変だった」という提出期限の問題があるように思われる。学生によっては授業が立て込んでいたり、アルバイトがあったりなど、その日のうちに300字を書くのは難しいといった状況にある者もいる。これについては、次年度から提出締め切りを翌日中に引き延ばすなどの措置を考えていきたいと考えている。できるだけ早く振り返りを行ってもらいたいという思いもあるが、ある程度の時間的余裕がある中で、内容や考えをまとめ文章に表現することも学生にとっては大切なことと思われる。

⑸　教職課程の授業で希望する授業の方法や形態

教職入門では今回「よい授業とは」という内容でグループワークを行った。また、生徒・進路指導論を受講している学生は主に２年生であるから、今までの教職課程の授業の中でどのような授業が望ましいのかということを考えてきているはずである。教員をめざす学生が中学校や高校などの教員としてどのような授業をしていくべきかについては、考えてきたわけである。そこで、今回は大学の教職課程の授業において、どのような授業を「よい授業」と考えているかを学生に聞いてみた。

結果としては、グループ討論を含む授業を希望している学生が多数を占めていると考えられ

る。グループ討論とだけ記述している学生も多かったが、意図するところは一斉授業の中でグループワークを含むということであろう。教職入門（受講者の多くが1年生）と生徒・進路指導論（受講者の多くが2年生で、昨年度はメディア授業を多く経験している）の受講者で差が出るかとも思ったが、グループワークの希望についてはほとんど差がないと考えてよいと思われる。今回の授業でいろいろなグループワークを経験して、学生たちが対面で教室で学ぶ意義を改めて認識し、グループワークについてのメリットを多く感じ取ってくれての希望ということであれば有難い結果である。そして、学生たちが教員になったときに、授業の目的を達成するため、いろいろなグループワークを工夫してくれることを期待したい。

模擬授業については、教職入門の受講者で希望が多く、生徒・進路指導論では希望が少なかった。おそらく、教職入門の受講者は模擬授業の経験がなく、教員なるにあたりやっておきたいという思いを持った学生がいるということであろう。一方、生徒・進路指導論を受講している学生は2年生が多いことから、おそらく、すでに教科指導法などの授業で模擬授業に取り組んでいるため、あえて希望数が多く出なかったのではないかと推測する。また、教職入門、生徒・進路指導論ともに一定の学生が一斉授業を希望しているというのも興味深い結果である。この点については、今後の分析が必要である。

グループ討論を含む授業を希望している学生が多数を占めていたということから、今後、一斉授業の中でいかにグループワークを取り入れていくか、その内容や方法を検討していく必要がある。これからも教職課程の授業の目的を踏まえ、グループワークにおける様々なテーマや方法を考え、学生たちとともに「よい授業」について研究を重ねていきたいと考えている。

参考文献

和田誠（執筆者代表）（2021）：『教師のこんなことしたい！を実現できるICT“超かんたん”スキル』株式会社時事通信社出版局

株式会社ストリートスマート＆できるシリーズ編集部（2021）：『できるGoogle for Education コンプリートガイド 導入・運用・実践編 増補改訂2版』株式会社インプレス